

地域における文化芸術活動に対する 支援事業等について

文化庁
平成16年6月

1 ふるさと文化再興事業

(平成16年度予算額 8億円)

地域において守り伝えられてきた伝統文化の継承・発展を図り、保存・活用を推進するため、都道府県教育委員会の計画のもとに伝統文化保存団体等の行う活動を支援する。

対象となる伝統文化

無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術等

対象事業

都道府県教育委員会の作成したマスタープランに基づき、伝統文化保存団体等が実施する次のいずれかの活動

- ・ 伝承者の養成
- ・ 用具等の整備
- ・ 映像記録等の作成

対象者

都道府県教育委員会の作成したマスタープランに基づき、事業を実施する地域の伝統文化の保存・活用を図ることを目的とする団体

- ・ 社団法人、財団法人、NPO法人
- ・ 規約、執行組織、会計組織、事務所を有する任意団体

実践事例

【秩父歌舞伎正和会の地域伝統文化伝承事業】

秩父市指定の無形民俗文化財である秩父歌舞伎の保存伝承を図るため、伝承者の養成として、秩父歌舞伎正和会の会員を中心に、秩父歌舞伎の伝承教室、義太夫養成事業等年間115日の養成事業を行った。秩父歌舞伎の伝承者養成では、実技指導（発声練習、台本読み、立ち稽古等）に加え、秩父祭屋台芝居、秩父歌舞伎正和会定期公演等5回の成果発表を行い、これに向けて実技指導を受けた。

義太夫養成事業においては、秩父歌舞伎正和会として、自前の義太夫を養成する必要があるため、秩父地方唯一の義太夫である小鹿野歌舞伎保存会の義太夫を指導者として招き、実技指導を受けた。

また、用具等の整備として秩父歌舞伎の衣装である打ち掛け、かみしも 袴・長袴等の衣装が摩耗等により使用できない状態であったため、新調した。



2 芸術拠点形成事業

我が国の文化芸術拠点の形成を図るため、文化会館、劇場などが行う優れた自主企画・制作の公演等を支援する。

(1) 公演事業支援 (平成16年度予算額 8億円)

対象事業

支援対象年度(4月1日から翌月3月31日)中に、文化施設で企画・制作する次の公演及び普及事業

- ア 当該文化施設で自ら企画・制作して実施する舞台芸術の公演。(申請施設で1年以内に上演された公演の再上演は、他施設での公演も対象)
- イ 申請団体が運営する専属劇団等の自主公演。(他施設での公演も対象)
- ウ 子どもたちを含め広く一般の国民が舞台芸術に親しみ参加する講習会やワークショップ等の普及事業

対象者

文化の振興普及に係る活動を行うことを主たる目的として設置された文化会館、劇場等の文化施設の管理者又は設置者

実践事例

【財団法人水戸市芸術振興財団(水戸芸術館ACM劇場)】

ACM劇場プロデュース公演『THE SECRET GARDEN』

平成15年度自主企画・制作公演として、ACMアトリエ公演、ACMダンス公演等を実施した。ACM劇場プロデュース公演『THE SECRET GARDEN』では、水戸という地域から新しい演劇作品を創造・発信していくことを目指し、次代を担う若手を集結して独創的な舞台作品を上演した。

普及事業では「市民の芸術文化活動の拠点となる」という基本理念を掲げ、水戸市民舞踊学校、水戸市民演劇学校、水戸子供演劇アカデミーを実施した。近年、卒業生の中から、劇場の自主企画公演に出演する市民が出てきており、今後の普及事業と企画事業との立体的な事業展開が可能となってきた。



ACM劇場プロデュース公演『THE SECRET GARDEN』

(2) 展覧会事業等支援 (平成16年度予算額 2億円)

対象事業

支援対象年度(5月1日から翌年3月31日)中に、美術館・博物館等が自主企画する次の事業

ア 地域連携事業

地域の中核館として他の美術館・博物館や学校等と連携して行う共同研究・研修事業、学校・文化施設等へ巡回展等の文化芸術推進事業その他の事業

イ 先進的な展示・教育普及手法の開発事業

IT等を活用した展示・教育普及手法の開発、アウトリーチ活動用の教材開発その他の事業

ウ 諸外国との交流事業

事業者の自主企画による外国の美術館・博物館等との交流による展覧会及び海外の学芸員等を招へいして行う講演会・シンポジウム・共同研究その他の海外交流事業

対象者

ア 公私立の美術館・歴史博物館(登録博物館または博物館相当施設(以下「美術館・博物館」という。))

イ 美術系若しくは歴史系の部門を有する総合博物館であって、博物館法で規定する登録博物館または博物館相当施設

ウ 上記アまたはイの館を含む複数の美術館・博物館等が組織する実行委員会等(上記ア、イに該当しない美術館・博物館等が構成員になることは可能。)

実践事例

【愛知県博物館協会 子供と博物館研究会 一宮市博物館・豊橋市美術博物館】



「つくって遊ぼう！」実施風景

本事業は、愛知県博物館協会内に組織した子どもと博物館研究会が実施した。

事業を10のワークショップで構成し、4つの会場で行った。その1つの会場である「一宮市博物館」では、日曜日に来館した子どもたちを広く対象にし、「つくって遊ぼう!」、「さわって、感じて、作ってみよう」(陶芸)、「おてがみ道場」「江戸時代の遊び」、「縄文人になろう!」などという毎週メニューが異なる贅沢なものだった。

また、少人数を対象とするものとして、「豊橋市美術博物館」を会場に「体験! 弥生生活」などを実施した。

組織の異なる学芸員が集うことにより、連絡不足や日程の調整の難しさなど大変なこともあったが、歴史系、自然系、美術系など、いつもは狭い分野の中で暮らしている学芸員自身への刺激にもなった事業だった。

3 本物の舞台芸術体験事業

(平成16年度予算額 25億円)

子どもたちが、優れた舞台芸術を鑑賞し、芸術文化団体等による実演指導、ワークショップやこれらの団体等との共演に参加し、本物の舞台芸術に身近に触れる機会の提供を行う。

対象事業

公演種目	合唱，オーケストラ，オペラ，邦楽，音楽劇，演劇，歌舞伎，能楽，文楽，洋舞，邦舞
演目	芸術性に富み、かつ評価の定まったものを中心として、対象年代の鑑賞に適したもの
公演団体	前記公演種目及び演目の実施に関し、相当の実績を有するもの
実施場所	学校の体育館又は地域の公立文化施設

対象者

児童・生徒、教職員及び児童・生徒の保護者（入場無料）

実践事例（公演団体の声）

【松山バレエ団】～「本物の舞台芸術体験事業」に参加して～

平成15年度は九州地方の7つの小・中・高等学校で公演を行った。

生の舞台（トゥシューズの音や飛び散る汗、舞台転換）は、当然ながらビデオや映画と異なりリアリティーそのものである。この感触を味わっていただくところに本物の舞台の醍醐味があると思う。終演後寄せられたアンケートの多くの喜びの声に、このような事業・活動が、社会的にいかに意味・意義あることかを再確認し、良いものをお見せして有意義なものにしなければという責任の大きさを改めて感じた。

バレエに興味ある生徒もそうでない生徒もいたと思うが、若い時期に見る舞台芸術の記憶や感動は、強く、長く、深く残るものだと思う。そして、このような機会がなければ一生舞台芸術に触れることのない方々に舞台をご覧いただくというこの事業は大変価値あるものであり、私たちにとっても大きな喜びであり、深い勉強の場を頂いているに他ならないと思う。

4 伝統文化こども教室事業（平成16年度予算額 13億円）

次世代を担う子どもたちに対し、土・日曜日などにおいて学校、文化施設等を拠点とし、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などの伝統文化に関する活動を、計画的、継続的に体験・修得できる機会を提供する。

対象事業

対象分野：我が国において継承されてきた伝統的な文化（伝統音楽、日本舞踊、茶道、華道、郷土芸能等）のうち、子どもが体験・修得することが適切と認められるもの

対象学齢：小・中学生

実施主体：伝統文化の伝承や普及等の活動を行う各種団体（実行委員会、公民館等を含む）

実施会場：学校、公民館、文化会館、体育館等

実施期間：半年から1年程度の間、継続的・計画的に実施

対象者

以下のいずれかに該当する組織・団体で、本事業を実施するために必要な運営上の基盤を有することが必要。なお一申請者につき一件の申請が認められる。

- ・ 社団法人、財団法人、NPO法人
- ・ 規約、執行組織、会計組織、事務所を有する任意団体又はこれに準ずる実行委員会
- ・ 地方公共団体（地方公共団体の文化施設、公民館等を含む）

実践事例

【愛知県常滑市榎戸郷土芸能こども教室】

常滑市榎戸の祭礼は、宝暦年間から続いている祭礼だが、伊勢湾台風の大災害以後、若衆組・青年団の解散により、昭和35年より途絶えていた。祭り囃子を記憶・演奏できる人々が高齢化し、祭りが煙滅する危機が起きたため有志により榎戸祭り囃子保存会を設立し、囃子の五線譜化、こども囃子会の育成に尽力してきた。

小学3年生のジュニアクラスと小学5年生から中学1年までのシニアクラスの2つに分け、月3、4回の指導を行った。秋祭りに参加するなどのカリキュラムを組み、毎回30名近くの子どもたちが参加した。

子どもと地域住民との交流が高まり、地域コミュニティの活発化、地域の活性化に貢献できた。



5 学校の文化活動の推進(学校への芸術家等派遣事業)

(平成16年度予算額 1億円)

児童・生徒が文化活動のすばらしさを知る機会を充実するとともに、学校の文化活動の活性化を図るため、優れた活動を行っている芸術家や伝統芸能の保持者などを出身地域の学校などに派遣し、講話や実技披露などを行うことによって、豊かな心を育む。

(1) 学校派遣講演

対象事業

芸術家や伝統芸能の保持者等を出身地域の学校等に派遣して、文化芸術に関する体験談や地域の誇りをはじめとする講話を中心に、簡単な実技披露等を行う。

対象者

小学校、中学校及び高等学校の児童・生徒、教員及び保護者

実践事例(実施報告書より)

【福井県鯖江市立進徳小学校】(平成15年10月1日(水)開催)

初めて見るフルートの美しさとその音色の美しさにどの児童も感動し、演奏に聴き入っていた。演奏者よりフルートの歴史や演奏法、種類によって音色が違うことなどフルートに関するたくさんの知識を習得した。

2時間ほどではあったが、生の演奏を目の前で見聞きすることは、児童の心を豊かにするだけでなく、ひとりの人間としての生き方まで学習することができた。

また、講師が校区出身ということで、地域に対する親しみと地域を大切にしようとする心情をも高めることができた。

(2) 指導者指導

対象事業

学校の文化部活動の指導を行う担当教員を対象とし、芸術家や伝統芸能の保持者等を派遣して指導方法の指導等を行う。

対象者

学校の文化部活動の指導を行う担当教員

実践事例（実施報告書より）

【山形県高等学校文化連盟日本音楽専門部】

（平成16年1月5日（月）、7日（水）、21日（水）開催）

日頃、生徒に教えることに追われているが、立場を変えて教えていただくことにゆとりを感じ、今まで曖昧だったことが質問を通してはっきりとしたことは、大きな意味があった。

【沖縄県高等学校文化連盟演劇専門部】

（平成15年8月14日（木）、15日（金）開催）

参加したすべての教員が演劇専門ではなかったが、この研修によって、劇を創作するまでの基本的な練習方法を身につけることができると、各学校での部活動において生徒に対する効果的な演技指導が可能となる。また、県内の演劇部の数も増加することが見込まれ、底辺拡大につながる。演劇教育振興にも大きな影響を与えることができると考える。

生徒からは演技指導だけでなく、照明・音響・舞台美術・メイクなどの指導・助言を求められることがあり、今後はそれらの分野の講習会も実施したい。

6 文化体験プログラム支援事業（平成16年度予算額 4億円）

子どもたちが日常の生活圏の中で、年間を通じて様々な文化に触れ、体験できるプログラムを作成し、実施する。（モデル事業）

対象事業

子どもの文化体験を目的として、地域の特色ある文化を活かし、市町村が作成する芸術文化、伝統文化及び文化財に触れることのできる事業。

（次のような分野・種目について、1～2日間のプログラムを適宜、複数組み合わせ、通算15日程度のプログラムを作成）

《分野（種目）》

A 音楽（オーケストラ、合唱、オペラ等）

B 演劇（演劇、児童劇、人形劇、ミュージカル）

C 舞踊（バレエ、現代舞踊、日本舞踊等）

D 伝統芸能（歌舞伎、文楽、能・狂言、邦楽等）

《内容》

様々なワークショップ形式のプログラムを組み立て、文化会館などの施設でそれぞれ1～2日間実施

対象者

市町村（実際の申請は都道府県教育委員会を通じて行います。）

実践事例（実施報告書より）

【日立市文化体験プログラム支援事業（茨城県）】

日立市では、昭和40年代にスポーツ少年団が組織され、多くの子どもたちが自由に種目を選び、スポーツを楽しみ、そして他団体との交流も盛んに行っている。そこで、子どもたちや親への文化啓発を継続して図れるよう、そのスポーツ少年団をモデルにした「文化少年団」組織の発足を進めており、文化に触れ、その興味を引く機会、仕掛け作りとしてこの事業を足がかりとした。実施に当たっては市文化協会の協力もあり、流派などの垣根を越えた、子どもたちが楽しめ、興味を引く内容とすることができた。

7 「文化芸術による創造のまち」支援事業

(平成16年度予算額 8億円)

この事業は、全国の文化水準の向上を図るため、地域における文化芸術活動の環境の醸成と人材の育成及び次代を担う子どもたちが参加する文化活動の活性化を図る。

対象事業

地域の文化芸術活動の環境づくり、人材育成及び子どもたちが参加する文化活動の活性化に寄与する、次に掲げる から のプログラムを組み合わせた事業。

人材育成：地域文化リーダー（指導者）の育成

例)・市民文化活動を活性化させる人材の育成

- ・文化施設を有効に活用するための人材
- ・子どもたちが参加する文化活動を支えるための人材
- ・地域における文化事業等を実施するための人材
- ・市民が文化に親しむためのサポート的役割を担う人材

団体育成：地域の文化芸術団体の育成

例)・地域に根ざした芸術文化団体の育成

- ・地域の子どもたちで構成される芸術文化団体の育成

発信交流：シンポジウムなどによる発信・交流

例)・地域の文化活動の活性化に寄与するシンポジウム等の開催

(地域文化リーダー等によるパネルディスカッション等)

- ・地域の子どもの文化活動の活性化に寄与するシンポジウム等の開催
- ・市民文化活動の交流を図るためのシンポジウム等の開催

対象者

市町村（実際の申請は都道府県教育委員会を通じて行います。）

実践事例（実施報告書より抜粋）

【文化と歴史の薫るまちづくり（島根県加茂町）】

地域の特色である考古学、薬草及び作陶の各分野の指導者育成や、従来より町内で取り組まれている舞台芸術（音楽及び演劇）の町民大学（ピリオネア大学）のレベルアップを図るためのプログラムを開催した。その結果2月にピリオネア大学の成果発表会が成功裡に終了するなど、多くの効果を得た。

8 文化ボランティア推進モデル事業

(平成16年度予算額 0.5億円)

各地域における文化ボランティア活動の一層の環境整備を図り、文化ボランティアを推進する。(モデル事業)

対象事業

先導的、実験的な文化ボランティア事業(下記の から に掲げる事業に該当し、その内容等が先導的、実験的なもの。複数の事業可)

文化ボランティアの継続的な活動の場、機会を提供する事業(ただし、単なる公演・展示等は除く。)

文化ボランティア及び文化ボランティアのコーディネーター(調整者)の研修事業

文化ボランティアの参加に資する情報提供事業

文化ボランティアへの普及啓発活動、参加のきっかけづくりとなる事業

コーディネーターの配置その他文化ボランティアのコーディネートに資する事業

他のボランティアとの交流事業

対象者

- (1) 地方公共団体(教育委員会を含む。)
- (2) 公立文化会館等
- (3) 博物館等
- (4) 文化の普及発展に資することを主たる目的とする公益法人、NPO法人等
- (5) 文化ボランティア推進実行委員会

実践事例

【石見銀山観光ボランティアガイドの会】

平成12年1月に、石見銀山遺跡等の観光ボランティアガイドの会として設立。設立以来、「史跡や文化遺産は障害者にとって観光しづらい」ことを実感してきたため、「史跡や文化遺産をボランティアガイドによって障害者にも観光しやすくできないか」という問題意識のもと、福祉の視点に立ったガイドの在り方について研修を重ねた。

今後は、障害者の人々にとって観光の一助となるような史跡や文化遺産についての地図を作成し、ハードの整備にたよらないボランティアによるバリアフリー化について実践していこうと考えている。

このような活動により、地域の観光に広がり生まれ、新たな人と人とのつながりが生まれている。



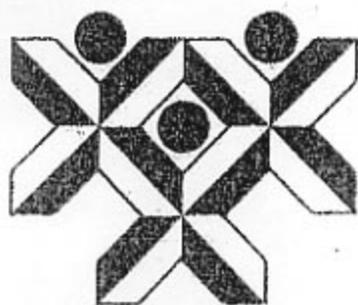
9 国民文化祭

国民が一般に行っている各種の文化活動を全国的な規模で一堂に集め、相互に共演、交流、発表する場として都道府県との共催により開催する。

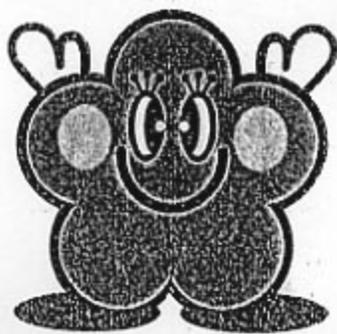
平成16年度は福岡県において、「第19回国民文化祭・ふくおか2004」として、10月30日(土)～11月14日(日)に開催予定。

主な内容

〈主催事業〉文化庁、開催地都道府県・市町村、文化団体等の共催によるもの。	
総合フェスティバル	アマチュア文化活動の新たな発展の方向性を示すオープニングフェスティバル等を実施。
シンポジウム	アマチュア文化活動、地域文化活動等を含めた日本文化の動向について、様々な側面からテーマを設定して行う基調講演やパネルディスカッションなど。
分野別フェスティバル	民俗芸能、民謡、オーケストラ、合唱、吹奏楽、演劇、文芸、美術、舞踊、邦楽、生活文化等の分野ごとに、県から推薦された団体等を中心として行う公演、展覧会など。
〈協賛事業〉国民文化祭の趣旨に賛同して、全国の地方公共団体や文化関係団体等の主催により開催される。各種公演事業やコンクール、フェスティバル、展示など。	



国民文化祭シンボルマーク (福田繁雄 作)



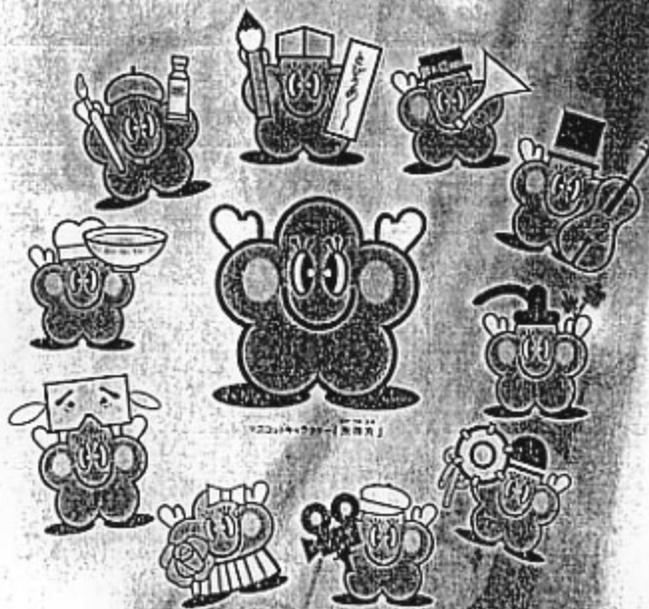
マスコットキャラクター「飛梅丸」

第19回国民文化祭・ふくおか2004
(平成16年10月30日(土)～11月14日(日), 福岡県)

第19回 国民文化祭・ふくおか2004

とびうめ国文祭

平成16年10月30日(土)～11月14日(日)



国民文化祭は、全国各地でいろいろな文化活動に親しんでいる人たちが集まって、
交流の成果を発表し、交流する国内最大の文化の祭です。
平成16年10月30日(土)～11月14日(日)の15日間、福岡県の県民会館で、
さまざまな催しが行われます。

福岡県文化振興課 TEL:092-472-6372 FAX:092-481-8909

10 全国高等学校総合文化祭

高等学校における芸術文化活動の振興に資することを目的として、高校生の文化活動の全国的な発表の場として、(社)全国高等学校文化連盟、都道府県との共催により開催する。

平成16年度は徳島県において、「高校文化祭とくしま'04」として、7月30日(金)～8月3日(火)に開催予定。

主な内容

総合開会式	式典、交歓会など。
パレード	マーチングバンド・バトントワリング部門参加校を中心とする全国の高校生によるパレードなど。
開催部門	演劇、合唱、吹奏楽、器楽、管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸等。



シンボルマーク
(徳島県高等学校文化連盟 作)



マスコットキャラクター

「うずまるくとあいちちゃん」

うずまるくん

(原画:松原由佳 徳島県立城東高等学校)

(愛称:柳川智美 徳島県立城東高等学校)

あいちちゃん

(原画,愛称:広報デザイン委員会)



第28回全国高等学校総合文化祭
2004年7月30日(金)～8月3日(火)

主催:文化庁、社団法人全国高等学校文化連盟、徳島県、徳島県教育委員会、徳島市、徳島市教育委員会、
徳島県、徳島県教育委員会、岡山市、岡山県教育委員会、徳島県高等学校文化連盟

第28回全国高等学校総合文化祭

(平成16年7月30日(金)～8月3日(火), 徳島県)

1 1 芸術情報プラザ

公立文化会館が自らの企画により優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供できるよう、芸術文化に関する情報提供や活動に対する指導助言を行うための芸術文化活動支援員の設置などを実施する。(社)全国公立文化施設協会のホームページ (<http://www.zenkoubun.jp/3/2/ggai.htm>) にて公開中。

主な内容

芸術情報プラザの主な事業内容

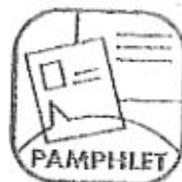
①芸術文化情報提供事業

芸術家・芸術団体の各種公演に関する情報資料や各地域の文化事業・文化活動等に関する情報を収集し展示するとともに、公立文化会館に提供する。



②アートフェア (舞台芸術見本市) の開催

公立文化会館関係者に対し、各舞台芸術ジャンルに関する理解を深めるためのビデオを制作するとともに、舞台芸術団体による直接的な情報提供を行う。



③マッチング事業

(アドバイザーによる指導助言)
自主事業の企画とそれにふさわしい公演を行える芸術家・芸術団体を専門的知識を持つアドバイザーにより結びつけるなど、自主事業の内湧かつ効率的な運営のためのアドバイスをを行う。



④芸術文化活動支援員の設置

芸術文化活動の企画、芸術監督等の専門家を派遣し、創造活動を支援する。



⑤アートマネジメント研修事業 (中央研修・ブロック別研修の開催 (7ブロック))

管理運営等の職員を対象に、アートマネジメントに関する研修を実施する。



⑥技術職員研修事業

(中央研修・ブロック別研修の開催 (7ブロック))
技術職員を対象として、舞台技術に必要な知識、技術に関する研修を行う。

芸術情報プラザは社団法人全国公立文化施設協会内に設置されています

〒163-1469 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー11F (私書箱2572)

TEL 03-5353-0321 FAX 03-5353-0322 開設時間 AM10:00~PM4:00 (土・日・祝日は休業)

<http://www.zenkoubun.jp/>

1 2 芸術文化振興基金による支援

(平成16年度予算額 14億円)

(うち地域文化の振興を目的とするものは2億円)

芸術文化振興基金は、政府出資金と民間からの出せん金を原資として、安定的・継続的に多様な芸術文化活動に幅広く助成を行うため、平成2年3月に設けられた。現在も、助成の充実のため、基金への寄付を随時募っている。

なお、基金は独立行政法人日本芸術文化振興会が運用し、助成対象活動の募集・決定・助成金の交付を行っている。

対象事業

1. 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
オーケストラ、オペラ、合唱、室内楽、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演その他の活動
文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、演芸等伝統芸能の公開その他の活動
美術の展示その他の活動
映画の製作活動
先駆的又は実験的な公演、展示その他の活動
2. 地域の文化の振興を目的として行う活動
文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示活動
歴史的集落・町並み等の文化財を保存し、活用する活動
民俗芸能その他の文化財を保存し、活用する活動
3. 上記1、2のほか、文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動
アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

実践事例

【開館5周年記念 シーハット市民ミュージカル】

市民が舞台の魅力を経験する機会にしようと、大村市振興公社が原作、出演者などを公募して制作し、小学校1年生から60歳代まで約60人の市民俳優が、プロの演出家らの指導で、半年間、練習を積み重ねた。

平成16年2月28、29日に大村市体育文化センターで公演が行なわれ、両日計3回公演で、市民ら約1,500人が鑑賞し、出演者は盛大な拍手を浴びた。

市では今後も市民が企画し参加する、郷土をテーマとしたオリジナル・ミュージカルの制作に継続的に取り組み、自慢できる新しい文化を持つ街づくりを推進していこうと考えている。

「Dreams Come True - オオムラザクラ夢想曲」

13 映画製作への支援

(地域において企画・制作される作品の制作支援)
(平成16年度予算額 3億円)

地域の活性化に資するため、地域において企画された映画、地域を題材に制作された映画等を支援する。

対象事業

補助の対象となる者が自ら製作し、地域の活性化に資する劇映画、記録映画及びアニメーション映画等の日本映画の企画から完成までの製作活動で、原則として次の要件をすべて満たすもの。

- ・一般に広く公開されるものであること
- ・16mmポジフィルム以上のものであること
- ・上映時間1時間以上のものであること
- ・補助対象経費が、劇映画、アニメーション映画においては5千万円以上、記録映画においては2千5百万円以上のものであること
- ・商業的、宗教的又は政治的な宣伝意図を有しないものであること

対象者

映画の製作活動を行うことを主たる目的とする我が国の団体で、次の(1)～(3)のいずれかに該当し、かつ、応募要件を満たす者

- (1) 社団法人、財団法人、NPO法人
 - (2) 上記(1)以外の法人格を有する団体
 - (3) 規約、執行組織、会計組織、事務所を有する任意団体
- (応募要件)

- ・原則として、映画製作につき過去に一般に広く公開された映画を製作した実績を有すること

実践事例

平成15年度支援実績 14作品

アイ・ラブ・ピース(「アイ・ラブ・ピース」製作上映委員会)

赤目四十八瀧心中未遂(赤目製作所)

新しい風ノフロンティア・ドリーム(株式会社ケイ・デジタル・ネットワーク)

ウィニング・パス(有限会社イメージ・サテライト)

図工の時間(有限会社海)

タイムグラバあちゃん(有限会社映像プロ・杜の風)

ジャンプ(株式会社エンジンネットワーク)

阿賀の記憶(有限会社カサマフィルム)

草の乱(有限会社神山プロダクション)

おにぎり(株式会社斉藤耕一プロダクション)

ニワトリはハダシだ(シマフィルム)

ROBOCON(株式会社東宝映画)

作兵衛さんの炭坑絵ものがたり 炭坑(ヤマ)に生きる(株式会社メディアストーリーミングシステム)

クマインカナバー(株式会社レオナ)

関西元気文化圏の取り組み

～関西から文化力～



平成16年6月

関西元気文化圏構想

趣意書

私が文化庁長官に就任したときに「文化で日本を元気にしよう」ということを抱負として語りました。以来一年以上、文化ボランティアや文化芸術の振興のため、日本全国を飛び回りました。そして、多くの素晴らしい活動をしている人々に出会いました。

日本には、元気で、素晴らしく、底力のある方々が沢山います。決して、経済不況で疲れてしまっている現状が、日本のすべてではありません。

ただ、今は政治、そして文化もが東京に一極集中しすぎています。それゆえに、各地域の方々が持っている底力が、下の方に沈んでしまって見えないだけなのです。これを表に見えるようにすることができれば、きっと日本は元気になれる。それが今、私が考えていることです。

そのために、まず関西から始めましょう。関西には、すでに歴史と文化の蓄積があります。皆さんの底力を発揮する為の場があります。それを使って、皆さんの元気を、底力を、日本全国、さらには世界へと向けて発信していくのです。

私たちは、そのお手伝いをさせてほしいと思っています。光の当たらなかったところに光を当て、底に沈んでいるものを下からかき混ぜて新しい動きを起こしていきましょう。

文化庁や国の力で皆さんが元気になるのではなく、皆さんが既に持っている元気を、底力を他の地域の人たちにも分けてあげられるように、皆で力を合わせ、一緒に頑張っていくでしょう。



発起人代表 文化庁長官

河野太郎

「関西元気文化圏」

～「文化」で関西から元気になろう～

「関西元気文化圏」について



河合長官の呼びかけに対して、関西の2府4県（京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県）や経済団体、関係事業者、報道機関などの代表者50人が賛同して5月22日に「関西元気文化圏発起人の会」が発足、さらに、8月6日には三重県、福井県、徳島県の3県を加えた2府7県に圏域を広げて、関西における推進組織である「関西元気文化圏推進協議会」が設立され、積極的な協

力体制の枠組みの下、文化団体や企業が行う文化関連事業、自治体の関係事業、文化庁の関係事業など多様な文化活動の展開による文化圏の一体化・活性化の一層の推進と一緒に取り組んでいます。

「関西元気文化圏」は、関西から日本の文化が力強く発信されることをねらいとしています。

「文化」について



「文化」というと、演劇、音楽、映画といった芸術や、歴史的建造物、伝統芸能などの文化財だけに限定して考えがちですが、衣食住や生活様式、価値観など、人間と人間の生活にかかわることすべてが「文化」です。「文化」は一部の愛好者だけのものではなく、私たち一人ひとりが「文化」の担い手なのです。したがって、「関西元気文化圏」には、文化団体や企業のみならず、一個人でも参加することができます。

また、日本の社会の活力を取り戻すために私たち一人ひとりが持っている「文化力」を発揮することの大切さを呼びかけるため、「文化力ロゴマーク」を作成、普及していくこととしました。

「関西元気文化圏」への参加について

文化庁及び関西元気文化圏推進協議会では、関西地域における文化活動の充実や文化圏の一体感を醸成することをねらいとして、文化に関連する様々な活動や事業を主催する方々に対し、その自律と協調の精神を尊重しつつ、共通のロゴマークの使用並びに協働による広報活動へ一緒に取り組んでいただける方々の参加を呼びかけています。

事業の登録については、関西元気文化圏ホームページ上で、どなたでも申請手続きができます。

「関西元気文化圏」参加事業（共催事業）の登録状況

登録件数 2,195件（H16.6.25日現在）

（内訳）

主催事業	4件
共催事業	671件
参加事業	1,520件

上記件数は、既に終了した事業と今後予定されている事業の総数です。

主催事業

関西元気文化圏推進協議会の文化関連活動や事業を指します。

共催事業

関西元気文化圏発起人並びに関西元気文化圏推進協議会の構成団体が主催者又はその一員になっている文化関連活動や事業を指します。

参加事業

主催者が、関西元気文化圏発起人、関西元気文化圏推進協議会及びその構成団体以外の文化関連活動や事業を指します。

「関西元気文化圏」の参加事業に登録した際の特典

1. 「関西元気文化圏参加事業」名義を使用した活動や事業の実施や広報
2. 「文化力」ロゴマークを使用した活動や事業の実施や広報
3. 「関西元気文化圏Webサイト」（文化庁提供）への掲載やマスメディアによる広報協力
4. 文化庁長官メッセージ等の使用

募集内容

京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、福井県、徳島県にまたがる関西地域で、申請時から6ヶ月程度以内に行われる予定の文化関連活動や事業を対象とします。

主催者の団体・個人の別、営利・非営利の別は問いませんが、主催者の責任において実施される事業に限ります。

申し込み方法

「関西元気文化圏Webサイト」(<http://bunka-ryoku.goo.ne.jp/>)において、オンラインによる申請・登録を行うことができます。

また、書面での申請をご希望の方は、返信用封筒(宛先を記入し、80円切手を貼ったもの)を下記までお送りください。

文化庁文化広報推進室内 関西元気文化圏事務局参加登録担当
〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1
TEL 03-6734-3161 FAX 03-6734-3817
E-mail: info@bunka-ryoku.goo.ne.jp

「関西元気文化圏」参加事業（共催事業）の特色ある取組

歌舞伎発祥400年 ～鴨川河川敷に阿国の歌舞伎踊り復活！～



鴨川河川敷の使用許可を受け、千人を越える観客が見つめる中、鴨川河川敷において、阿国歌舞伎が400年ぶりに復活しました。

当日の鴨川の様子

大勢の方が幻想的な歌舞伎の舞台に酔いしれました。

阪神タイガース御堂筋優勝パレード ～「阪神から文化力マーク」起用～



阪神タイガース御堂筋パレード実行委員会の御協力を得て、広報活動(チラシ、ポスターなど)の中で使用されました。

左：「阪神から文化力」のロゴマーク

右：パレードの様子(阪神タイガースは、関西元気文化圏推進協議会賞も受賞しました。

第1回京都学生祭典 ～学生による文化再生～



「大学のまち 京都」にて京都の活性化、京都ブランドの復権、京都から全国への文化発信を目的に、学生を中心に産・官・学・地域が連携し全国にも例を見ない京都発の「学生まつり」を企画実施。

学生によるパレードの様子

学生主催の映画祭や、平安神宮での倉木麻衣のコンサートも行われました。

特別史跡平城宮跡朱雀門結婚式



観光客からも祝福を受ける新郎新婦

朱雀門は平城宮跡に歴史的建造物として文化庁が復元整備し、管理していますが、文化資産の積極的活用を進める観点から、使用を許可し結婚式が執り行われました。

「市民との協働」で「公の空間」を「新たな文化資産」に変えた一例といえます。

関西元気文化圏推進協議会について



「関西元気文化圏」に深く共感した、関西地域の経済団体、企業、報道機関および行政機関等が自ら「関西元気文化圏」を推進するため、平成15年8月6日に「関西元気文化圏推進協議会」を設立しました（会員については、別紙参照）。設立総会には、小泉首相を招き激励の言葉をいただきました。

関西元気文化圏推進協議会が実施した事業（主催事業）について

関西文化の日

平成15年11月1日～23日に関西2府7県の美術館・博物館など121の文化施設において常設展を中心とした無料観覧が行われました。この取組は関西元気文化圏域内の方々に広く美術・学術に触れる機会を提供し、文化への関心を高めてもらうことを目的として、関西元気文化圏推進協議会及び関西広域連携協議会が事業に参加する地方公共団体や民間等の協力を得て実施されたものです。

関西2府7県（福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県）「関西文化の日」の実施により、平成14年度も同時期に無料観覧を行っていた国立5施設においては

4,374人（H14） 16,382（H15）【前年比3.75倍】に増加し、
公立の施設においても

25,859人（H14） 56,574（H15）【前年比2.19倍】に増加
しました。

これらは個々の施設としてだけでなく、関西が一体となって取り組んだ成果と言えます。

神戸らんぷミュージアムにおける関西文化の日の様子



神戸らんぷミュージアムでは、関西文化の日の趣旨に賛同して、平成15年11月15日・16日に無料観覧を行いました。両日併せて、850の方が来館され、当日は和のあかりから文明開化のランプなど貴重なコレクションを展示する常設展「あかりの歴史博物館」や企画展「あかりの広告展」をみなさんにご覧いただきました。

ミュージアム・フォーラム 2003



シンポジウムの様子
写真は河合長官と安藤忠雄氏

平成 15 年 11 月 17 日に「ミュージアムへ行こう！ミュージアムフォーラム 2003 - 文化を楽しく遊ぶ、学ぶ、体験する - 」が開催されました。

河合長官のほか建築家の安藤忠雄氏などが出席したシンポジウムでは、市民の観点を重視しながら、博物館等の活動を通して関西の文化発展や心豊かな市民生活及び地域づくりの実現がテーマとされ、公共事業や入館者数の問題について活発な議論が行われました。

また、河合長官は「博物館等に実際に足を運ぶこと」の重要性について呼びかけました。

「関西元気文化圏」今年度予定されている主な事業

関西元気文化圏では、昨年度に引き続き関西元気文化圏推進協議会の主催による事業等を推進していくほか、文化庁としても関西元気文化圏の目的である「関西を文化情報の発信拠点」とするため、今年度も以下の事業について関西地域を中心に開催する予定です。

今年度実施予定の「関西元気文化圏」事業（昨年度の様子）

文化庁芸術祭



芸術祭授賞式の様子

平成15年度は、桂三枝さんに大賞、宝塚歌劇団星組に優秀賞が贈呈されました。

写真は授賞式出席者一同による記念撮影

文化庁芸術祭は平成15年度に58回を迎え、関西元気文化圏文化庁主催事業として、以下のとおり審査方法、対象を変更して開催されました。

- 1) 参加公演の審査期間を、前年までの10日間から30日間(関東と同期間)に延長
- 2) 関東・関西で個別に審査を行い、それぞれに芸術祭対象を選定、贈賞。

関西地域においては、芸術祭主催公演として、文楽公演、上方芸能特選会、日本映画名作鑑賞会が行われました。

また、芸術祭賞の授賞式が初めて関西にて開催されました。

関西元気文化圏推進協議会賞



授賞式の模様（文楽は、平成15年11月にユネスコの世界無形遺産の宣言を受けました。）

関西元気文化圏推進協議会は、文化で関西と日本を明るくした人や団体をたたえる同協議会賞を創設し、平成15年度の対象に人形浄瑠璃文楽と阪神タイガースを選びました。

また、関西の文化を地道に存続させてきたとして、OSK日本歌劇団に対し「文化庁長官賞」が贈呈されました。

文化庁舞台芸術国際フェスティバル



平成14年から開始された「文化庁舞台芸術国際フェスティバル」は、昨年は関東・関西において開催された。関西地域では、10月6日から12月26日にかけて、「アジア・オーケストラウィーク」(5公演)、「舞踊とオーケストラの饗宴」、「西風のコンチェルト」、「アジアのスーパー・ガラ・コンサート」、「『鐘の音』～管弦楽で綴る鐘の響き～」、「ポップアジア2003」(2公演)の11公演が開催されました。

文化庁日本語教育大会



河合長官による挨拶の様子

文化庁では平成7年度より日本語教育の推進に資するため、「日本語教育大会」を開催しています。平成15年度は東京のほか、兵庫県においても11月2日に「日本語教育大会関西大会」を開催しました。当日は河合長官も出席し、「ボランティア活動としての日本語教育の在り方について考える」をテーマに、鼎談や講演等を行いました。なお、本年度は大阪にて開催予定です。

国際文化フォーラム

文化庁では平成15年度より、内外の著名な文化人・芸術家が講演・討論を通じて文化について語る機会を設けることを目的とした「文化庁国際文化フォーラム」が開催しました。平成15年11月10日から11月30日の間、「文化の多様性」をテーマに関西各地で7つのセッションが開催され、参加者による活発な議論の応酬が繰り広げられました。



11月10日 討論「オペラ・都市・社会」

(滋賀：びわ湖ホール)



11月24日 討論「文化芸術と科学技術」

(京都：国立京都国際会館)



11月25日 座談会「外交官が見た日本文化の魅力と文化多様性」

(兵庫：兵庫県公館)



11月25日 座談会「演劇の未来 - 大阪から世界へ - 」

(大阪：大阪迎賓館)



11月26日 座談会「文化の多様性への対応 - 21世紀の美術館の課題 - 」

(京都：二条城)



11月26日 座談会「グローバリゼーションと芸術家のアイデンティティ」

(京都：西本願寺・書院)



11月27日 討論「文化による協調と共存」

(奈良：薬師寺)

本フォーラムは、文化について語り合うための場所として、関係機関の協力により、歴史的建造物や代表的な現代建築を会場として開催され、参加者からも好評を得ました。

本年度も関西圏の文化施設(文化資産)を活用して、様々なセッションが予定されています。是非、御期待ください。

関西元気文化圏に関するこれまでの歩み

平成15年3月17日	河合隼雄文化庁長官が大阪で、関西2府4県を中心に文化で日本を元気にすることをめざす「関西元気文化圏構想」を発表。
5月22日	「関西元気文化圏構想」に賛同する関西の約50の団体が集まり「関西元気文化圏構想発起人の会」が開催される。
6月20日	「関西元気文化圏参加事業」の募集が開始
6月24日	「関西元気文化圏参加事業第一号」として劇団四季「アイダ」の制作発表が行われる。
8月4日	関西の若手芸術家と文化庁幹部が意見交換を交わす機会として、主に舞台芸術分野で活躍する方々との「関西在住新進若手芸術家と文化庁長官との懇談会」を京都国立博物館にて開催。その後も文楽若手技芸員や他の分野の芸術家の方々との意見交換会を複数開催。
8月6日	関西の各団体が自ら主体となって関西元気文化圏を推進するための、「関西元気文化圏推進協議会」の設立総会が、小泉純一郎内閣総理大臣を迎えて開催される。対象圏域が福井、三重、徳島を加えた2府7県に拡大。
9月6日	関西における文化庁主催事業の集中化の第1弾として「全国映画祭コンベンション」開催。
10月1日	文化庁芸術祭開幕（～11月28日） 本年より関東と関西で差のあった参加期間を同じとし、また関東・関西でそれぞれに芸術祭大賞を送ることとした。
10月6日	文化庁舞台芸術国際フェスティバルが開幕。第1回は東京のみで開催されたが、今回は関西を中心に11公演が行われた。また、初の試みとして、海外から招聘したオーケストラが姉妹都市や在日の関係者との交流を行う「地域交流事業」及び企業に勤める方々を対象に、家族とともに芸術を鑑賞する機会を設ける「家族で劇場へ行ってみよう」キャンペーンを行った。（～12月26日まで開催） 「家族で劇場に行ってみよう」キャンペーンにおいては、上記のうち8公演で実施し、延べ15社、83家族（206人）が劇場を訪れ、舞台芸術に親しんだ。

11月 1日	「関西元気文化圏推進協議会」の初の主催事業として、関西各地の121の博物館・美術館等文化施設が無料観覧日を設け、人々の文化に親しむ機会を創出する「関西文化の日」が開催され、国立の各施設では例年の3倍以上の入場者で大いに賑わった。（～11月一杯に渡り関西各地で開催）
11月 2日	兵庫県において、文化庁主催事業「日本語教育大会関西大会」を開催。
11月10日	文化庁国際文化フォーラムの第1弾として、滋賀県・びわ湖ホールにて討論「都市・オペラ・社会」が先行的に開催。
11月17日	関西元気文化圏推進協議会主催事業として、地域と美術館・博物館活動の連携方策を探るためのシンポジウム「ミュージアム・フォーラム2003」を大阪にて開催。
11月21日	関西で文化的・社会的な活動に興味を持つ学生と文化庁幹部との意見交換会の機会である「関西学生文化力会議」を開催。
11月24日	京都国際会館にて国際文化フォーラムの討論「文化芸術と科学技術」が開催されるとともに、国際文化フォーラムが本格的に開幕し、11月30日までの間、一連の行事が関西各地で行われた。 また、これに伴う「地域交流事業」として、京都市立芸術大学の「留学生懇親会」や京都造形芸術大学の「国際文化フォーラム特別授業」が開催され、それぞれ海外からの招聘者が参加した。
11月27日	関西元気文化圏に伴う初めての試みとして、関西に在住する人間国宝が一堂に会する機会として、「伝統文化の祭典～人間国宝in関西」が京都で開催された。
12月13日	様々な形で文化財を支える「選定保存技術」の保持者が集い、現状や課題について話し合うシンポジウム「文化財を支える伝統の名匠たち～選定保存技術～」が奈良県にて開催された。
平成16年1月15日	芸術祭の贈呈式を初めて関西で行う。また、同時に開催された「関西元気文化の集い」において、関西の文化を地道に存続させてきたOSK日本歌劇団等に対して文化庁長官賞が、関西の元気文化の代表である「人形浄瑠璃文楽」及び「阪神タイガース」に対して、関西元気文化圏推進協議会賞が贈られた。
平成15年度	年間を通して、「文化芸術創造プラン(新世紀アーツプラン)」により、芸術団体、映画祭、子どもたちの優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供などに対して支援を行った。

関西元気文化圏推進協議会 会員名簿

(順不同・敬称略)

〔特別顧問〕

文化庁長官		河合 隼雄
-------	--	-------

〔経済団体〕12

(社)関西経済連合会	会長	秋山 喜久
(社)関西経済同友会	代表幹事	寺田千代乃
近畿商工会議所連合会	会長	田代 和
福井商工会議所	会頭	江守 幹男
三重県商工会議所連合会	会長	小菅 弘正
大津商工会議所	会頭	高橋宗治郎
京都商工会議所	会頭	村田 純一
大阪商工会議所	会頭	田代 和
神戸商工会議所	会頭	大庭 浩
奈良商工会議所	会頭	阪本 道隆
和歌山商工会議所	会頭	島 正博
徳島商工会議所	会頭	津川 清

〔企業・団体〕42

(株)インターアクト・ジャパン	代表取締役	帯野 久美子
(株)大阪国際会議場	社長	山下 和彦
大阪ガス(株)	会長	野村 明雄
オムロン(株)	会長	立石 義雄
関西国際空港(株)	社長	村山 敦
関西国際空港ビルディング(株)	社長	岡澤 元大
関西電力(株)	社長	藤 洋作
近畿日本鉄道(株)	社長	山口 昌紀
近鉄百貨店(株)	社長	田中 太郎
京阪電気鉄道(株)	社長	佐藤 茂雄
サントリー(株)	相談役	津田 和明
三洋電機(株)	会長	井植 敏
(株)サンリット産業	社長	小池 俊二
清水建設(株)	顧問	村上謙一郎
住友金属工業(株)	社長	下妻 博
ダイキン工業(株)	会長兼CEO	井上 礼之
武田薬品工業(株)	会長兼CEO	武田 國男
(株)電通関西支社	支社長	丸山 功
東洋紡績(株)	会長	柴田 稔

南海電気鉄道(株)	社長	山中 諄
西日本電信電話(株)	社長	上野 至大
西日本旅客鉄道(株)	会長	南谷 昌二郎
西日本旅客鉄道(株)	社長	垣内 剛
日本生命保険(相)	社長	宇野 郁夫
阪急電鉄(株)	社長	角 和夫
(株)阪急百貨店	会長	菅井 基裕
阪神電気鉄道(株)	社長	手塚 昌利
バンドー化学(株)	会長	雀部 昌吾
ぴあ(株)関西支社	支社長	木戸 文夫
松下電器産業(株)	会長	森下 洋一
ミズノ(株)	副社長	水野 明人
(株)UFJ銀行	頭取	寺西 正司
吉本興業(株)	名誉会長	中邨 秀雄

(社)大阪外食産業協会	相談役理事	小嶋 淳司
(財)大阪観光コンベンション協会	会長	津田 和明
(財)大阪21世紀協会	会長	熊谷 信昭
(社)関西プレスクラブ	理事長	老川 祥一
(財)関西文化学術研究都市推進機構	常務理事	輔信 捷三
(社)日本ホテル協会大阪支部	支部長	佃 孝之
(社)日本旅行業協会関西支部	支部長	新倉 武一
歴史街道推進協議会	事務局長	井戸 智樹
関西広域連携協議会	代表理事	新宮 康男

[マスメディア] 15

(株)朝日新聞社大阪本社	代表	内海 紀雄
(株)毎日新聞社大阪本社	代表	出口 正作
(株)讀売新聞社大阪本社	社長	板垣 保雄
(株)日本経済新聞社大阪本社	代表	平田 保雄
(株)産経新聞社	大阪代表	田村 正希
(社)共同通信社大阪支社	支社長	江畑 忠彦
(株)時事通信社大阪支社	支社長	三橋 清二
(株)京都新聞社	社長	野村栄太郎
(株)神戸新聞社	社長	稲垣 嗣夫
日本放送協会大阪放送局	局長	御手洗正彦
(株)毎日放送	社長	山本 雅弘
朝日放送(株)	社長	西村 嘉郎
関西テレビ放送(株)	社長	出馬 迪男
讀賣テレビ放送(株)	社長	泉 巖夫
テレビ大阪(株)	社長	富澤 秀機

〔国の機関〕5

経済産業省近畿経済産業局長		宮城 勉
国土交通省近畿運輸局長		梶原 景博
国土交通省近畿地方整備局長		谷口 博昭
厚生労働省近畿厚生局長		江口 弘久
農林水産省近畿農政局長		山川 雅典

〔地方公共団体〕13

近畿ブロック知事会	会長	山田 啓二
福井県知事		西川 一誠
三重県知事		野呂 昭彦
滋賀県知事		國松 善次
京都府知事		山田 啓二
大阪府知事		太田 房江
兵庫県知事		井戸 敏三
奈良県知事		柿本 善也
和歌山県知事		木村 良樹
徳島県知事		飯泉 嘉門
京都市長		榊本 頼兼
大阪市長		磯村 隆文
神戸市長		矢田 立郎

会員数 87

平成 15 年 8 月 6 日現在



「丸の内元気文化プロジェクト」について

大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会
文 部 科 学 省

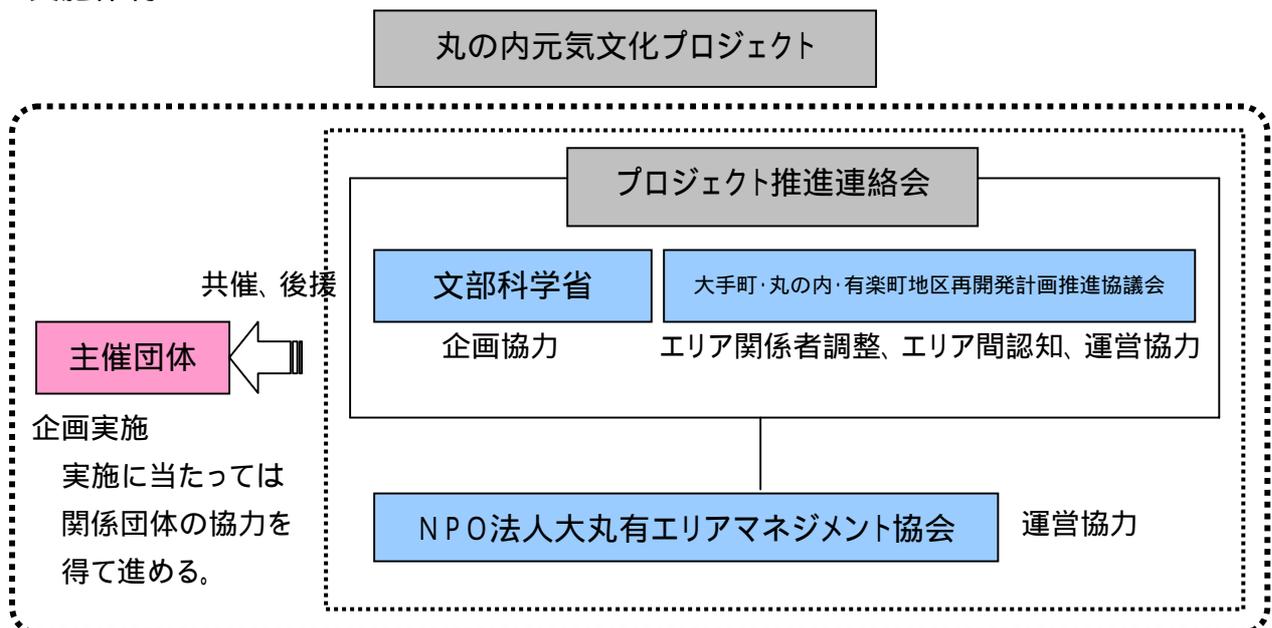
これまで丸の内地区においては地区内地権者をはじめ、官民が一体となり、日本経済の中心地としてのみならず、文化的な街として発信すべく、さまざまな取り組みを進めて参りました。

本年 1 月、この大手町・丸の内・有楽町地区（以下丸の内地区）に文部科学省が移転し地域の一員となったことで、5 月 20 日付けで「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」に特別会員として参加致しました。これを契機に、丸の内からの文化発信の動きを一層推進していくため、今般、同協議会と文部科学省とが協力して「丸の内元気文化プロジェクト」を実施する運びとなりました。

本プロジェクトは、この地域で働く方々の芸術文化に触れる機会を増やすことなどにより、地域の文化力を高め、文化力で社会を元気にしていくことを目指すものです。プロジェクトの実施にあたっては、さまざまな分野で活動を行っている芸術文化団体と地区内企業、NPO法人「大丸有エリアマネジメント協会」などが協力して進めていきます。

日本でも有数の、働く人々の集まる街「丸の内」。この地域で本プロジェクトを進めることで、丸の内地域、ひいては日本の社会を更に元気にしていきたいと考えています。

1. 実施体制



2. 現在、予定している主なプログラム

いつもどこかで文化や学びに触れることができる環境づくり～定期プログラム～

After 7 Cinema (丸ビル7階ホール)

主催：文化庁他

- 働く人々が仕事の後に映画を楽しめる、開演7時の映画鑑賞会。
映画監督や俳優、識者を迎えたトークイベントも併せ開催。

【スケジュール】第1回：6月14日(月)18時30分開場 19時開演

「こんばんは」(文化庁映画賞受賞作品)【入場無料】

映画上映とスタッフのトークイベント

丸の内落語会 (丸ビル1階カフェーズ)

主催：(社)落語協会

- カフェで落語を気軽に楽しんで頂きます(1,000円ワンドリンク付)

【スケジュール】第1回：6月23日(水)18時30分開場 19時開演

出演 柳家さん喬、柳家喬之助、柳家さん角

(社)日本オーケストラ連盟コンサート(丸ビル5階空中庭園 / 入場無料)

主催：(社)日本オーケストラ連盟

- 連盟加盟のプロオーケストラメンバーによる室内楽の演奏

【スケジュール】第1回：6月14日(月)18時開演

出演：日本フィルハーモニー交響楽団有志(予定)

文化と学びを発信する街、丸の内となるために～個別プログラム～

河合隼雄文化庁長官トークサロン(丸ビル8階コンファレンスルーム他 / 入場無料)

主催：文化庁

- 河合隼雄文化庁長官が各界著名人と公開対談。

【スケジュール】第1回：6月7日(月)19時～ 岡田武史氏(横浜F・マリノス監督)

第2回：6月24日(木)19時～ 井上ひさし氏(作家)

(財)日本文化芸術財団コンサート 「創造する伝統 いろは日本へと」

(丸ビル1階マルキューブ / 入場無料)

主催：(財)日本文化芸術財団

- 各日出演者による生演奏。創造する伝統の活動紹介

【スケジュール】7月1日(木)～7月3日(土)

出演 7/1(木) 江戸里神楽 若山社中

2(金) 吉村七重(箏)、宮田まゆみ(笙)

3(土) 赤尾三千子(笛)、西橋健(佐渡の文弥人形)

(財)現代人形劇センター「インド伝統舞踊劇カタカリ」公演(仮称)

(丸ビル7階ホール)

主催:(財)現代人形劇センター

- インド四大舞踊のひとつ「カタカリ」公演とレクチャーデモンストレーション

【スケジュール】11月20日(土)～11月21日(日)

「Discovery In Marunouchi」と「子ども見学デー(仮称)」の同時期開催

主催:大丸有エリアマネジメント協会 / 文部科学省をはじめとした関係府省庁等で
実施

- 業務説明や職場見学などを行い、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに
広く社会を知る体験活動の機会とする「Discovery In Marunouchi」と「子ども
見学デー(仮称)」を同時期に開催予定

【スケジュール】8月25日(水)～26日(木)

上記の他、現在、地区全体でのアート展開他、さまざまなプログラムの検討を進めています。

3. その他

- ・ 丸ビル1階・7階と文部科学省ビル1階に「丸の内元気文化プロジェクト専用情報ラック」
を設置。働いていてもいつでも誰でも気軽に情報を得られる場を創ります。
- ・ 本プロジェクトの情報を随時インターネットでも配信します。
(丸の内エリア情報サイト <http://www.marunouchi.com>)
- ・ 本プロジェクトの趣旨に賛同する参加事業の登録を受け付けます。登録いただくと、
「丸の内元気文化プロジェクト参加事業」名義を使用した活動の実施や広報
「丸の内から文化力」ロゴマークを使用した活動の実施や広報
推進連絡会による、事業の広報協力
などが可能となります。(登録受付窓口:文化庁文化広報推進室(03-6734-3161))

以上

本件に関するお問合せ先

文化庁文化広報推進室

(03 - 6734 - 3161)

大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会

(03 - 3287 - 6181)

<丸の内元気文化プロジェクト ロゴマーク>

